

奈良地方気象台長からのメッセージ

奈良地方気象台のホームページをご覧ください、ありがとうございます。台長の森永 裕幸（もりなが ひろゆき）です。

奈良地方気象台は、明治 30 年（1897 年）に高市郡八木町（現在の橿原市）に設立された奈良県立八木測候所が前身です。昭和 28 年（1953 年）に奈良市半田開町に移転し奈良測候所と改称、昭和 32 年（1957 年）に奈良地方気象台に昇格、平成 29 年（2017 年）3 月に現在の西紀寺町に移転しました。

奈良県は、紀伊半島の真ん中に位置し、近畿の屋根といわれる山岳地帯を南部に持ち、周囲を山に囲まれています。東西に流れる吉野川を境として南部の山地は雨が多く、冬は厳しい冬山にもなりますが、北部の奈良盆地は雨が少なく、夏は蒸し暑く、冬は寒さが厳しいことなど、豊かな自然やその恵みを感じることができる一方、台風や大雨などの自然災害からの被害を事前に予測、それらができるだけ未然に防止・軽減することが大切です。

最近は、幸いにも大規模災害は発生していませんが、これまでには特別警報新設のきっかけの一つとなった平成 23 年の「紀伊半島大水害」など大雨災害が発生しています。また、南海トラフの巨大地震の発生の可能性が今後高まっており、この奈良県でも甚大な被害の発生が予想されます。大地震がいつ発生しても対応できるように日頃の備えが重要です。

気象台として、地元に着目、日ごろから地域との連携を大切に防災業務に力を注ぐとともに、災害発生の予測や状況に応じて、現地に職員を派遣し、住民の皆様様の安全を守るための気象情報のきめ細かな情報の提供など、奈良県のみなさまのため、わかりやすく確実に伝わる防災気象情報の発表や解説を行ってまいります。

これからもみなさまに信頼される気象台であり続けられるよう、職員一同取り組みさせていただきます。



令和 5 年(2023)年 4 月 3 日

奈良地方気象台長 森永 裕幸